

## 今年度 表彰を受賞された皆様

おめでとうございます

### 第 65 回全国農業コンクール全国大会

☆☆☆優秀賞☆☆☆

#### 農事組合法人ななおれ梅組合（組合長：東 洋二）

平成 28 年 6 月 30 日、大阪府大阪市で「第 65 回全国農業コンクール全国大会」が開催され、砥部町の農事組合法人ななおれ梅組合が優秀賞を受賞されました。

当日の大会では、組合を代表して、新規就農した大内祐衣さんが全国 20 代表の一つとして実績発表を行いました。発表後、中央審査委員会による審査が行われ、受賞者が決まりました。

本表彰は、創意工夫を凝らした栽培技術をもとに卓越した農業経営を展開し、地域に大きな影響を与えている先進的、独創的な農業者を顕彰するものです。

当組合は、特産の「七折小梅」の振興のため、様々な活動を展開しています。

組合員の所得確保のため、一粒一粒完熟の梅を手取り収穫するなど、高品質生梅の生産に努め、近隣の市場だけでなく、関東関西圏への販路開拓、材料や製法にこだわった梅干し、シロップ、ゼリーなど組合オリジナル商品の開発、さらに異業種とも連携した商品開発などを手がけています。

また、「七折小梅」のPR・知名度向上のため、地域を挙げた梅まつりを開催し、約 4 万人を集客する他、梅まつりや、初収穫、梅干し作り体験などのトピックをメディアを利用して発信しています。

さらに、高齢化・担い手確保対策として、園内作業道の整備や農繁期における人材確保、子供達への食農教育、就農希望者の研修機関としての受け入れを実施し、新規就農者の確保につなげています。

こうした 100 年後も続く梅産地づくり活動が評価されての受賞で、今後も活躍が期待されます。



大会会場にて(左から大内さん、東組合長、竹内加工部長)



「七折小梅」商品



組合の皆さん

## 今年度 表彰を受賞された皆様

おめでとうございます

### 第 46 回日本農業賞

第 46 回日本農業賞の受賞者・団体の発表が、平成 29 年 1 月 31 日、JA 全中（全国農業協同組合中央会）からあり、個人経営の部で砥部町の石田慎一さん（57 歳）が当表彰の最高賞である大賞を、集団組織の部で JA 松山市④久万高原トマト部会が優秀賞を受賞されました。

#### ☆☆☆ 個別経営の部 大賞 ☆☆☆ 石田慎一さん（砥部町）

個人経営の部で大賞を受賞した石田さんは、果樹研究所カンキツ研究興津拠点を終了後に就農し、父親が 65 歳の時に経営移譲を受けました。現在、親子 3 世代で役割分担し、温室みかん 31 a、愛媛果試第 28 号（紅まどんな）施設 22a、せとか 8 a、キウイフルーツ 31 a、不知火他 78 a、合計 1.7 ha の多品目栽培に取り組み、高い生産技術で JA 内トップクラスの秀品率を誇り、収益性の極めて高い果樹経営を実現しています。

今回、労働配分や危険分散を考慮した果樹の多品目・周年出荷による経営改善や、高品質、安定・多収等の高度な栽培技術、さらに、産地のリーダーとしての若い後継者育成や地域への貢献が高く評価されての受賞となりました。今回の受賞について石田さんは、「海岸部よりも条件が厳しい産地で高品質のかんきつ作りに努めてきた。受賞は共に力を合わせてきた家族や地域の仲間と関係機関のおかげ、今後も安定した家族経営で地域農業をリードしたい」と喜びを語りました。



「紅まどんな」の剪定作業をする石田さん



父親と長男の三世代で経営分担

#### ☆☆☆ 集団組織の部 優秀賞 ☆☆☆ JA 松山市④久万高原トマト部会

集団組織の部で優秀賞を受賞した JA 松山市久万高原トマト部会は、高齢化率が 45% と県下で最も進んだ久万高原町において、現在、生産者 98 戸、約 20ha で夏秋トマトを栽培し、部会員の約 2 割が新規就農者で構成されるなど、担い手も確保しながら西日本有数のトマト産地を形成しています。

また、部会員全員が「エコえひめ」の認証を受け、化学農薬と化学肥料ともに 3 割以上の削減と合わせて、全農安心システム認証とエコファーマーにも取り組み、より安全で安心な夏秋トマトとしてブランドを確立しています。

このように、JA 松山市久万高原トマト部会は、地域や関係機関団体等と一体となり、地域農業の振興と地域活性化に貢献した取り組みが高く評価されての受賞となりました。

今回の受賞を受けて、渡部部会長は、「今後 50 年、60 年と農地を守り、地域農業を発展させたい」と抱負を語りました。



栽培技術を熱心に研修する生産者の皆さん



収穫したトマトを手にする渡部部会長